

# ドッカン！まるごと児童館サミット ～ぼぼぼっ児童文化フェスティバル～



まるごと児童館実行委員長 大久保 潤

10月22日、旭ヶ丘にある日立システムズホールで「ドッカン！まるごと児童館サミット～ぼぼぼっ児童文化フェスティバル」を開催しました。仙台市内の児童館を指定管理する11団体と112館の児童館が手を取り合って、児童文化満載の児童館PRと他団体の職員交流を目的として行いました。

始まりは今年の2月。各団体から実行委員を輩出し、第一回実行委員会が開かれました。会議室は緊張感が漂い静まり返っており、当時私は、育児休暇を頂いていたので生後4カ月の娘をベビーカーに乗せ会議に出席しました。（今思えば、娘を連れて行った事で場が和んでいたのかも）気が付けば実行委員長に…。

時間が経つにつれ、小学生以上の遊び部会やステージ部会など大きく4つの部会が立ち上がり、様々なアイデアや情報交換が自然と出始め初対面同士のメンバーは、仲間へと姿を変えていきました。毎月2回実行委員会を開き、共有し、イメージを膨らませ、いかに来場者に楽しんでもらえるか、そして本当の児童館（児童クラブのためだけの施設ではなく、子ども&子育て応援の施設ということ。）を知ってもらうかを試行錯誤しディスカッションを重ねました。団体ごとに違う運営方法や価値観を上手にミックスし幾つもの難題を乗り越え当日を迎える事ができました。

当日は100名以上の児童館職員が参集し、イベント名どおり巨大な児童館が「まるごと」旭ヶ丘に移動してきかのようにでした。生憎の雨でしたが、それでも来てくれた来場者にちょっと感動（泣）。親子でニコニコ楽しんでいる姿に、私も思わずニコリしてしまうのでした。

さて、今回のイベント名には擬音が2つ使われています。「ドッカン！」と「ぼぼぼ」。

この2つは児童館を利用している子どもたちから出た言葉です。そのうちの1つ「ぼぼぼ」は榴岡児童館に来ている子どもから出たフレーズでした。「今度さ～、大きい児童館まつりやるんだけど、なんかいい

名前ない？」と私が何気なく一人の男児に聞くと「ぼぼぼがいい！ぼぼぼ！ぼぼぼ！アハハ～！」と彼は笑いながら走り去りました。「ぼぼぼ」この言葉にはきっと深い意味は無いでしょう。意味を求めがちな私たち大人は、普段は流してしまう言葉かもしれませんが、しかし、何故かこの時はとても気になる言葉でした。この何気ない擬音「ぼぼぼ」が私の頭の中をグルグルと走りはじめたのです。実行委員会でも子どもから出たフレーズを聞くと、やはり擬音が多くていました。子どもは擬音で生きている！この「ぼぼぼ」にも色々な意味があるように思えてきました。「頬を赤らめるぼぼぼ」「何かを落とすぼぼぼ」「花が咲くぼぼぼ」、子どもからでた言葉には受け手側次第で無限に意味が広がる…。その事に気が付いた私たちは満場一致で今回のイベント名を決定したのでした。

この子ども達の感覚が児童文化財の「形無き形」なのかもしれません。制作物や発表等だけでなく、普段の子どもたちの「遊び」や「空間」というものが立派な文化財なのかもしれません。見えない宝物が児童館には溢れ返っているようです。後日、「ぼぼぼ」の名付け親の男児に「君のぼぼぼが採用されたよ！」と報告すると、驚きの返答がりました。

少年「…え？…何のこと？」

私「…覚えていないか…、とにかく…おめでとう」

子どもは常に前進して生きているようです。（笑）ここもまた羨ましい一面ですね。素晴らしいヒントをくれた子どもたちに、学ぶ事はまだまだありそうです。

実行委員長という立場で仙台市の児童館全体を覗き、子どもたちから学び、これからの業務や生活がより一層楽しくなる予感がします。

